



---

# 決算説明資料

2019年3月期

---



証券コード  
**5936**

2019年6月7日

東洋シャッター株式会社

**2019年3月期 決算概況**

**P 3**

経営環境	P4~6
決算概要	P7,8
収益性分析	P9~12
製品別売上明細・受注実績	P13~16
受注実績・受注残高推移	P17
メンテサービス事業の状況	P18
キャッシュ・フロー計算書	P19

**その他トピックス**

**P 30**

独ハーマン社との取り組み	P32,33
その他のハーマン製品	P34
注目度の高い製品	P35

**参考資料**

**P 36**

東洋シャッターの概要	P36~38
------------	--------

**中期経営計画について**

**P 20**

中長期的な事業環境予測と対応方針	P21
新中期経営計画『BRUSH UP 3』	P22~26
連結業績推移・計画	P27
2020年3月期業績計画	P28
設備投資額・減価償却費の見通し	P29
配当の状況	P30

# 2019年3月期 決算概況

---

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

国内経営環境

国内  
経済

国内経済は緩やかな回復基調



建設  
市場

新規着工が相次ぐ首都圏は堅調  
首都圏以外は横ばいの推移



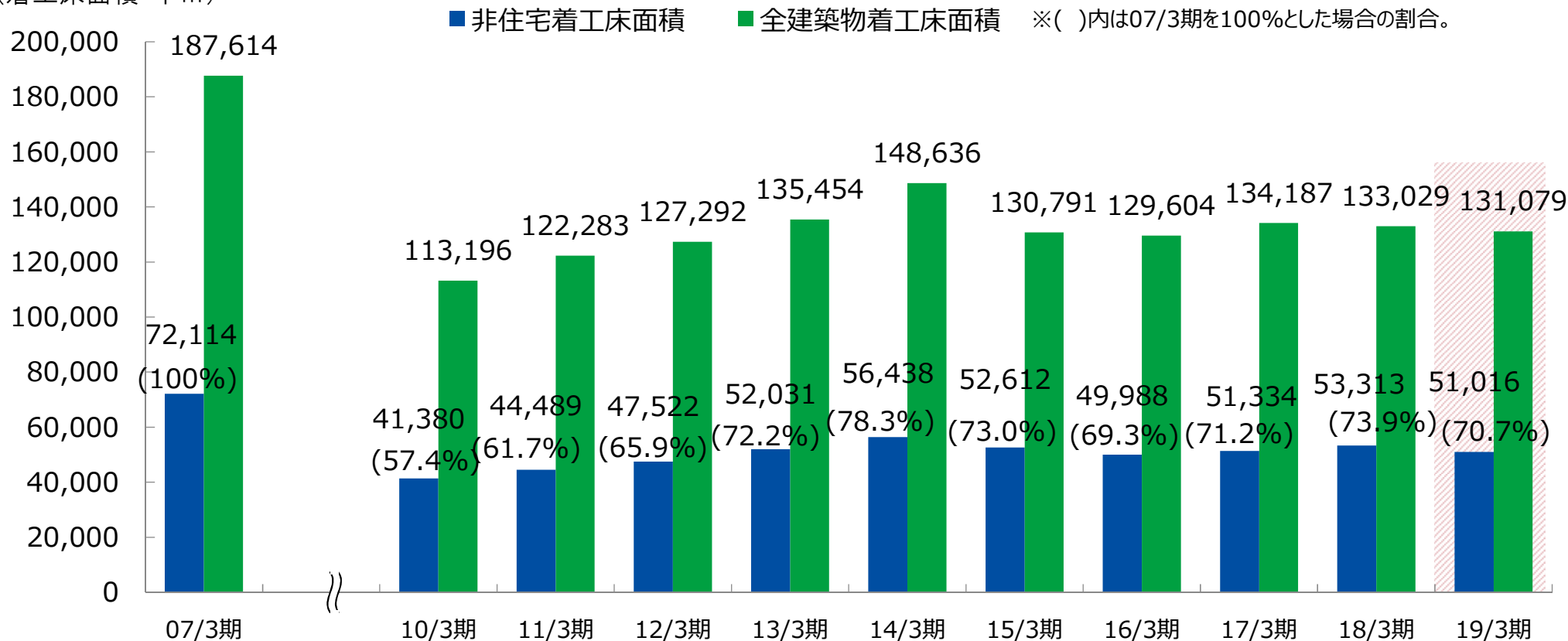
シャッター  
市場

シャッター・スチールドア市場は受注競争継続

非住宅着工床面積の推移

- 非住宅着工床面積は3年ぶりの減少と力強さに欠ける。

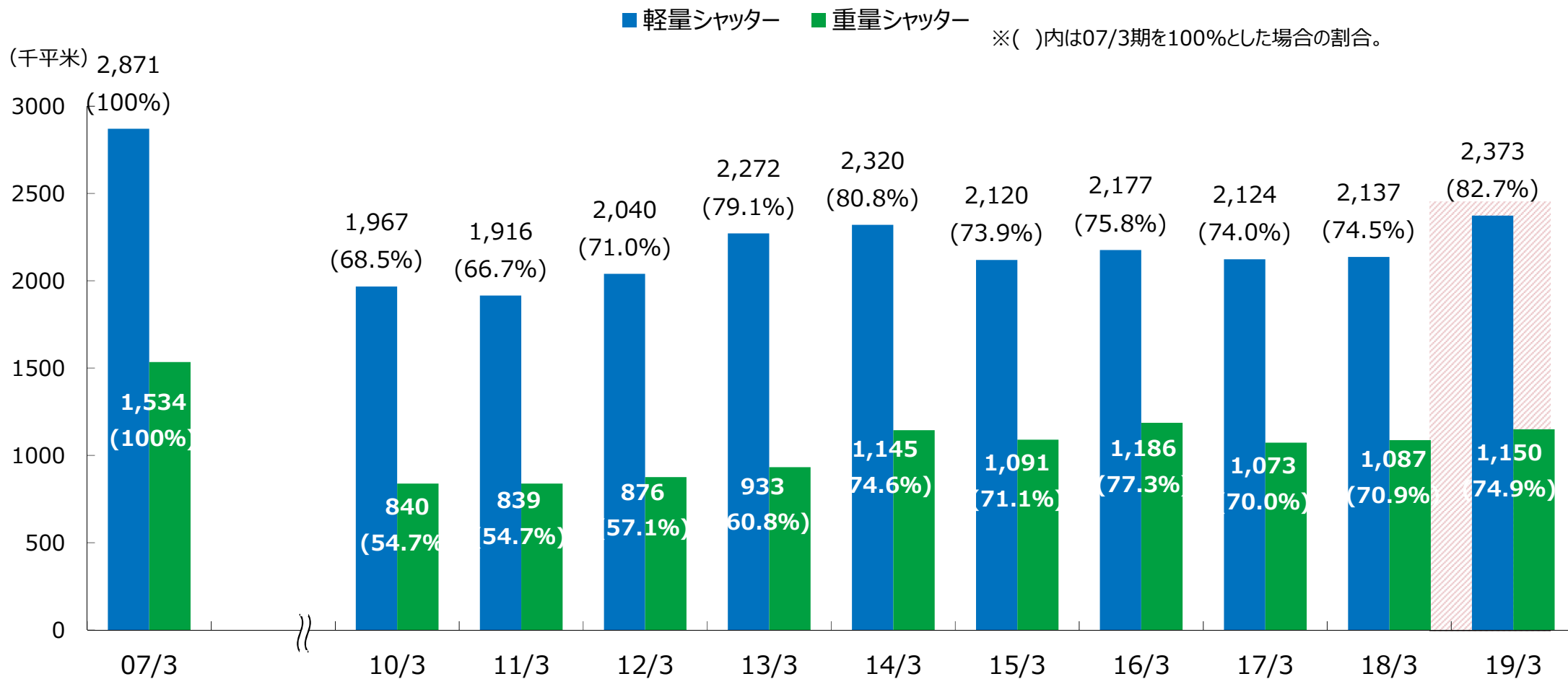
(着工床面積:千㎡)



(資料) 国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

JSDA（日本シャッター・ドア協会）集計 生産数量推移

● 自然災害の影響もあり、軽量シャッター・重量シャッターともに増加



(資料)JSDA生産数量より推計

- ① 売上高 : 前年同期比11.6%増の212億5,100万円
- ② 営業利益 : 前年同期比145.2%増の14億1,700万円
- ③ 経常利益 : 前年同期比83.4%増の13億8,200万円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 : 前年同期比85.8%減の6,900万円

※保有する一部の固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、帳簿価額を回収可能額まで減額し、約10億円の減損損失として特別損失を計上しております(2019年4月22日リリース)

(百万円)	18/3期	19/3期		
		期初計画	修正計画	実績
売上高	19,043	19,000	21,000	<b>21,251</b>
営業利益	578	600	1,200	<b>1,417</b>
経常利益	753	500	1,100	<b>1,382</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	490	300	700	<b>69</b>

※修正計画は2019年1月28日リリースの数値となります

1

## 台風の影響によりシャッターの修理や復旧需要が高まる

従来、台風による復旧需要では軽量シャッターの需要が高まる傾向にあるが、2018年9月に関西を直撃した台風21号は例年の台風よりも大型且つ強風だったため軽量シャッターだけでなく、重量シャッターにも復旧需要が発生。

2

## 一部の生産拠点と営業拠点について減損処理を実施

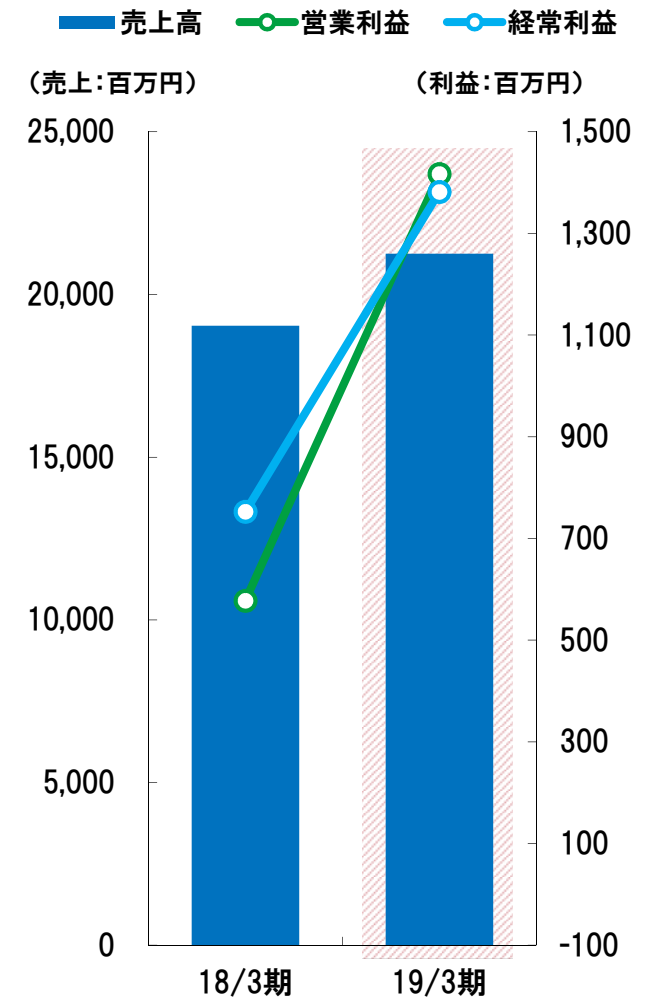
バブル期に投資した、工場を中心とする一部の固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき984百万円の減損損失を計上。

（主な内訳：つくば工場（土地、建物及び構築物）約913百万円）



● 台風の影響もあり大幅な増収増益

(百万円)	18/3期	19/3期	前期比 増減率
売上高	19,043	21,251	11.6%
売上原価	14,268	15,376	7.8%
売上総利益	4,775	5,875	23.0%
売上総利益率	25.1%	27.6%	
販売管理費	4,197	4,457	6.2%
営業利益	578	1,417	145.2%
営業利益率	3.0%	6.7%	
経常利益	753	1,382	83.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	490	69	△85.8%
減価償却費	399	432	8.3%



収益性改善の取り組み

**1** 安定的な生産量の確保

**2** 「メンテサービス」の強化・拡大

**3** 採算管理の強化

**4** 業務効率化による少数精鋭体制確立

四半期ごとの売上高・営業利益の推移

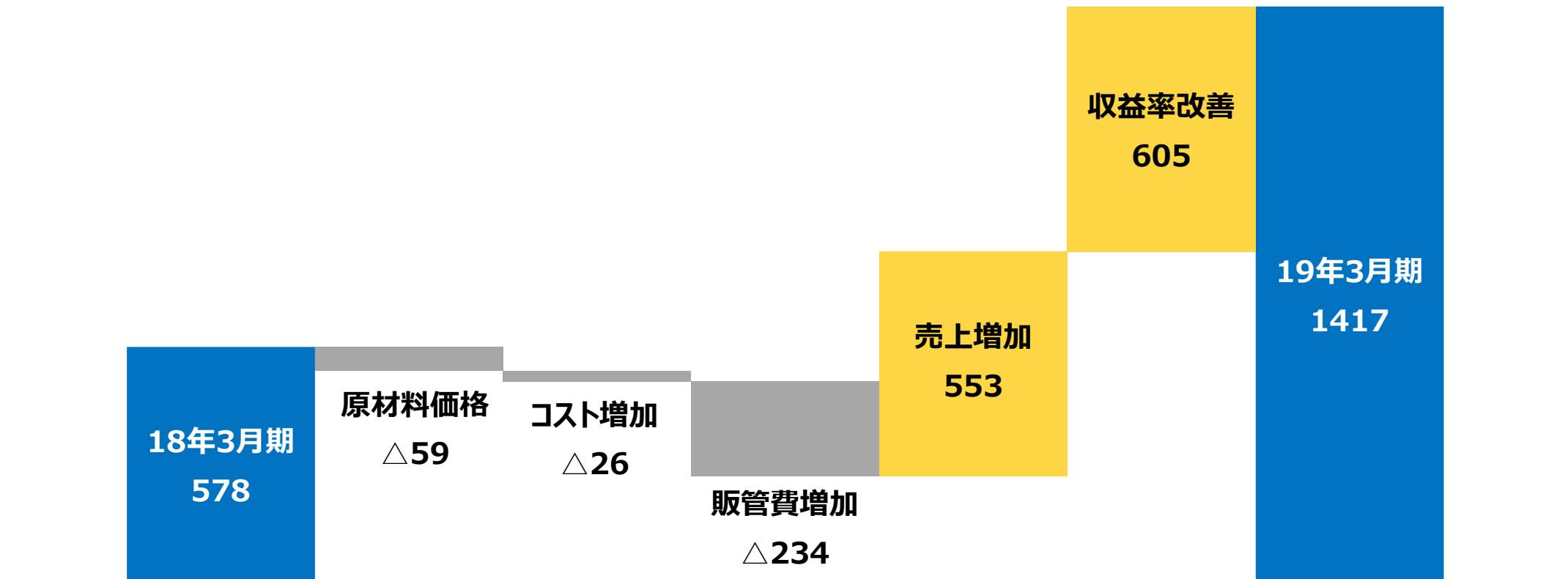
- 自然災害による復旧需要もあり、下半期に大幅な増収増益

(百万円)		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	累計
売上高	2014/3	4,078	4,470	4,472	5,822	18,842
	2015/3	3,966	4,701	4,583	5,557	18,807
	2016/3	4,315	4,528	4,688	5,009	18,540
	2017/3	3,762	4,314	4,427	5,317	17,820
	2018/3	3,996	4,598	4,849	5,600	19,043
	<b>2019/3</b>	<b>4,097</b>	<b>4,823</b>	<b>6,105</b>	<b>6,226</b>	<b>21,251</b>
営業利益	2014/3	197	226	249	558	1,230
	2015/3	157	463	371	467	1,458
	2016/3	161	310	337	358	1,166
	2017/3	14	234	219	289	756
	2018/3	16	148	205	209	578
	<b>2019/3</b>	<b>57</b>	<b>153</b>	<b>640</b>	<b>567</b>	<b>1,417</b>

営業利益増減要因

- 売上高の増加と収益率の改善によって大幅な営業増益

(単位：百万円)

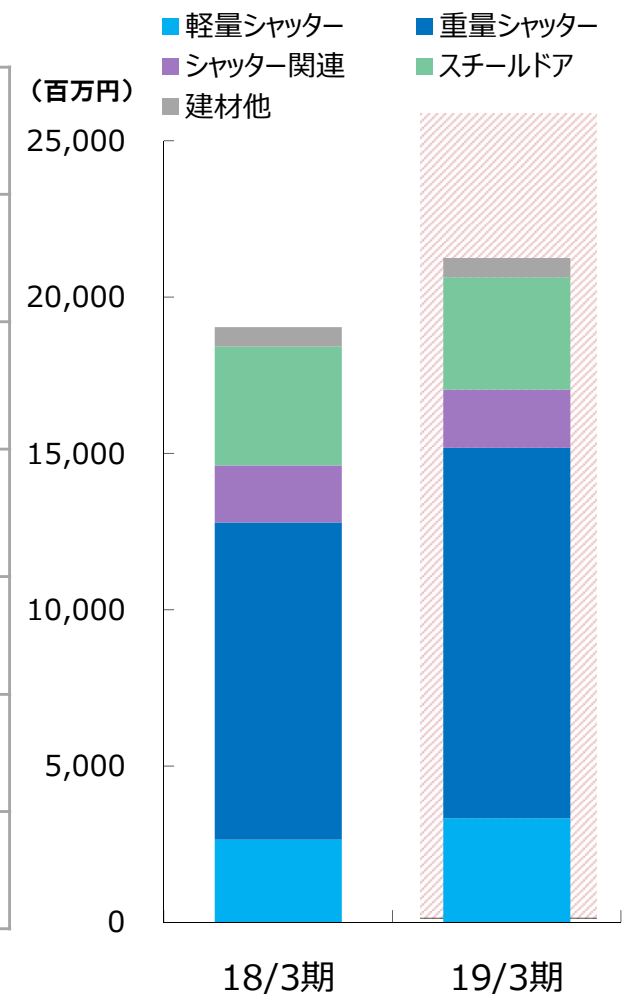


全製品別売上実績

- 軽量シャッター、重量シャッターの増加により全体は11.6%増

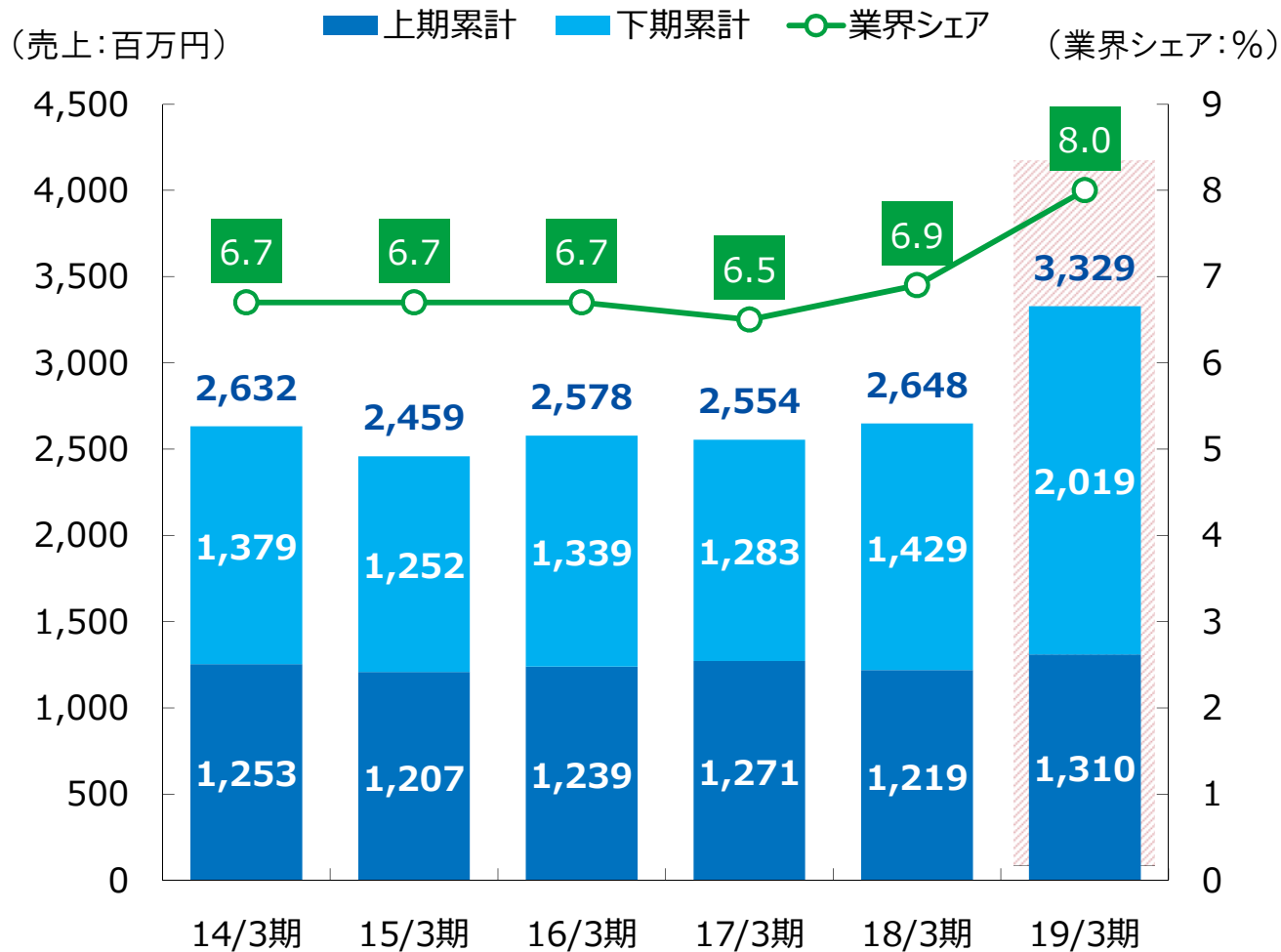
(単位:百万円)

(百万円)	18/3期	構成比	19/3期	構成比	前期比 増減率
軽量シャッター	2,648	13.9%	<b>3,329</b>	<b>15.7%</b>	25.7%
重量シャッター	10,139	53.3%	<b>11,848</b>	<b>55.7%</b>	16.9%
シャッター関連	1,829	9.6%	<b>1,863</b>	<b>8.8%</b>	1.8%
スチールドア	3,798	19.9%	<b>3,597</b>	<b>16.9%</b>	△5.3%
建 材 他	626	3.3%	<b>612</b>	<b>2.9%</b>	△2.3%
合 計	19,043	100%	<b>21,251</b>	<b>100%</b>	11.6%



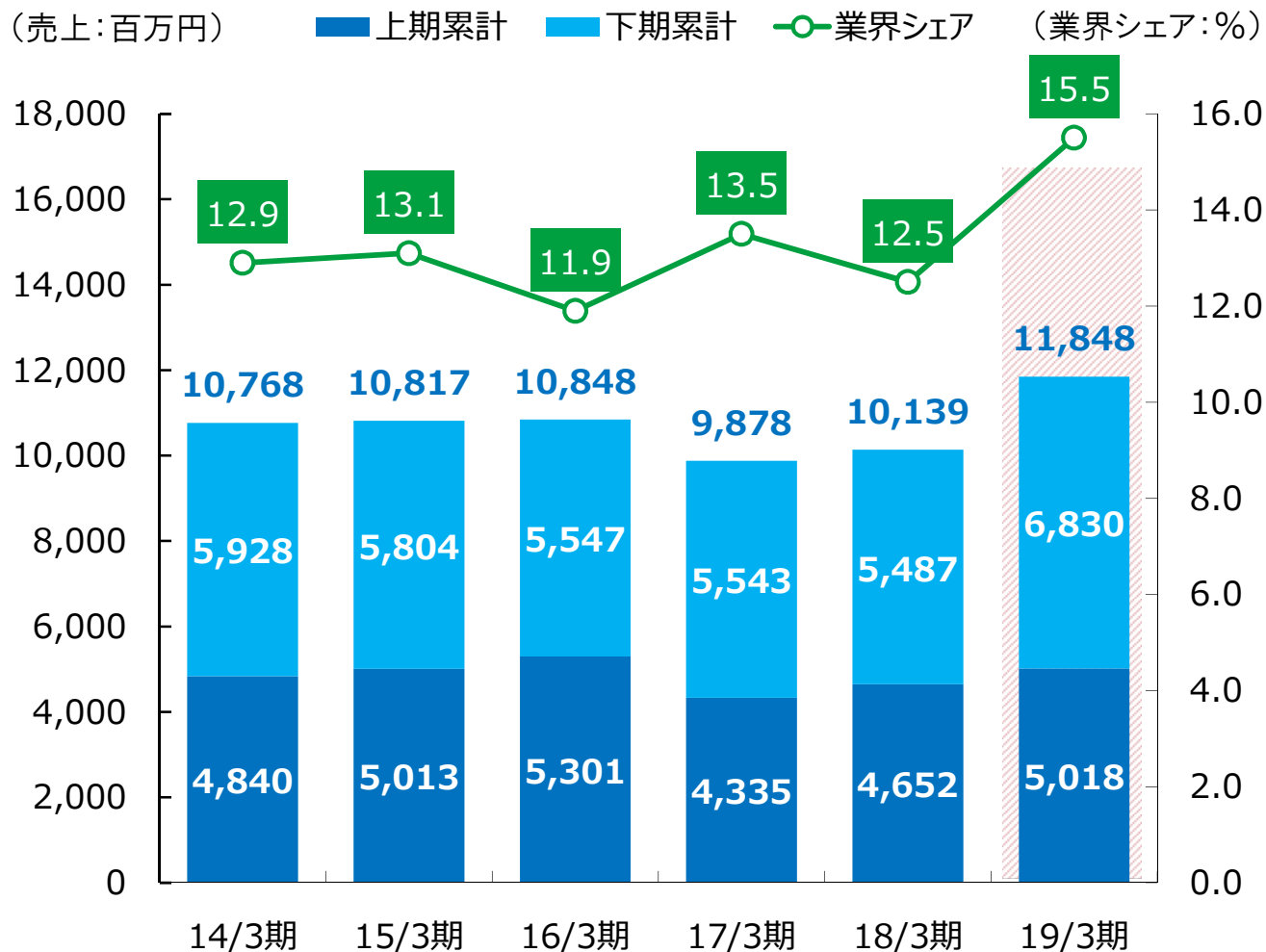
軽量シャッター

- 台風の影響による復旧需要を期中に消化し、売上高は前年同期比25.7%の増加
- 業界シェアは1.1%上昇



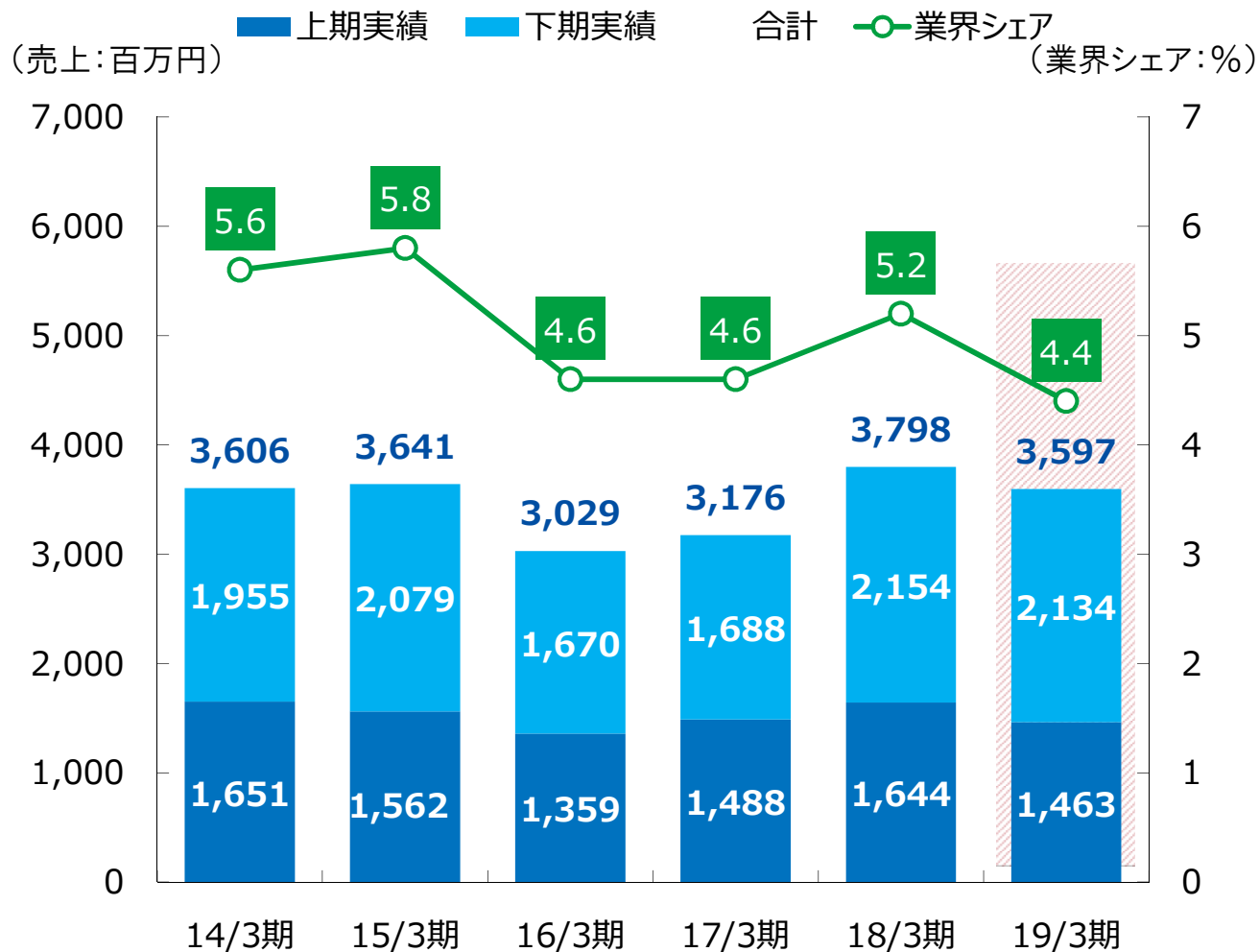
重量シャッター

- 大型案件の完工に加え、台風の影響による復旧需要で、売上高は前年同期比16.9%の増加
- 業界シェアは3.0%上昇



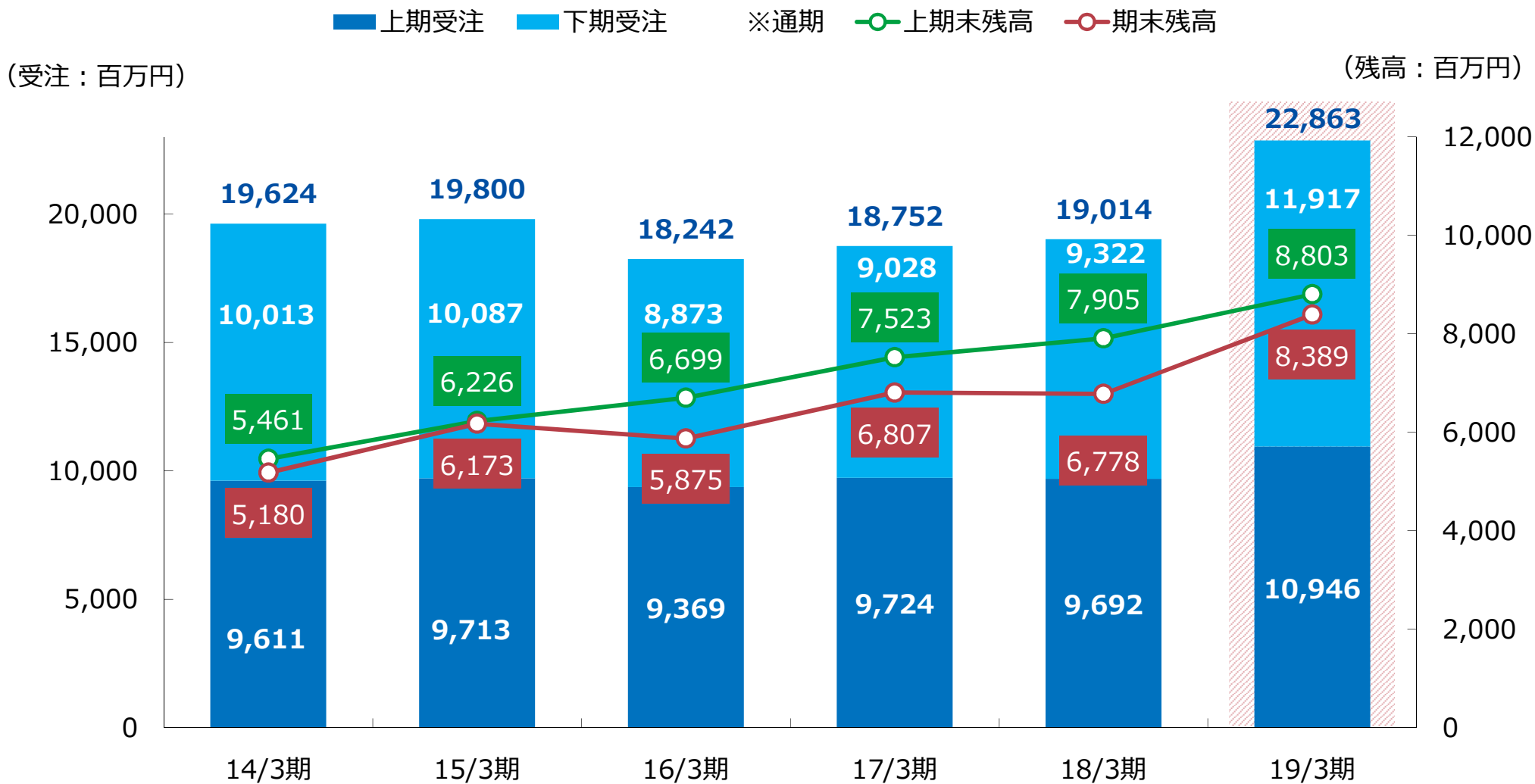
スチールドア

- 前年度の大型案件完工の影響もあり、売上高は前年同期比5.3%の減少



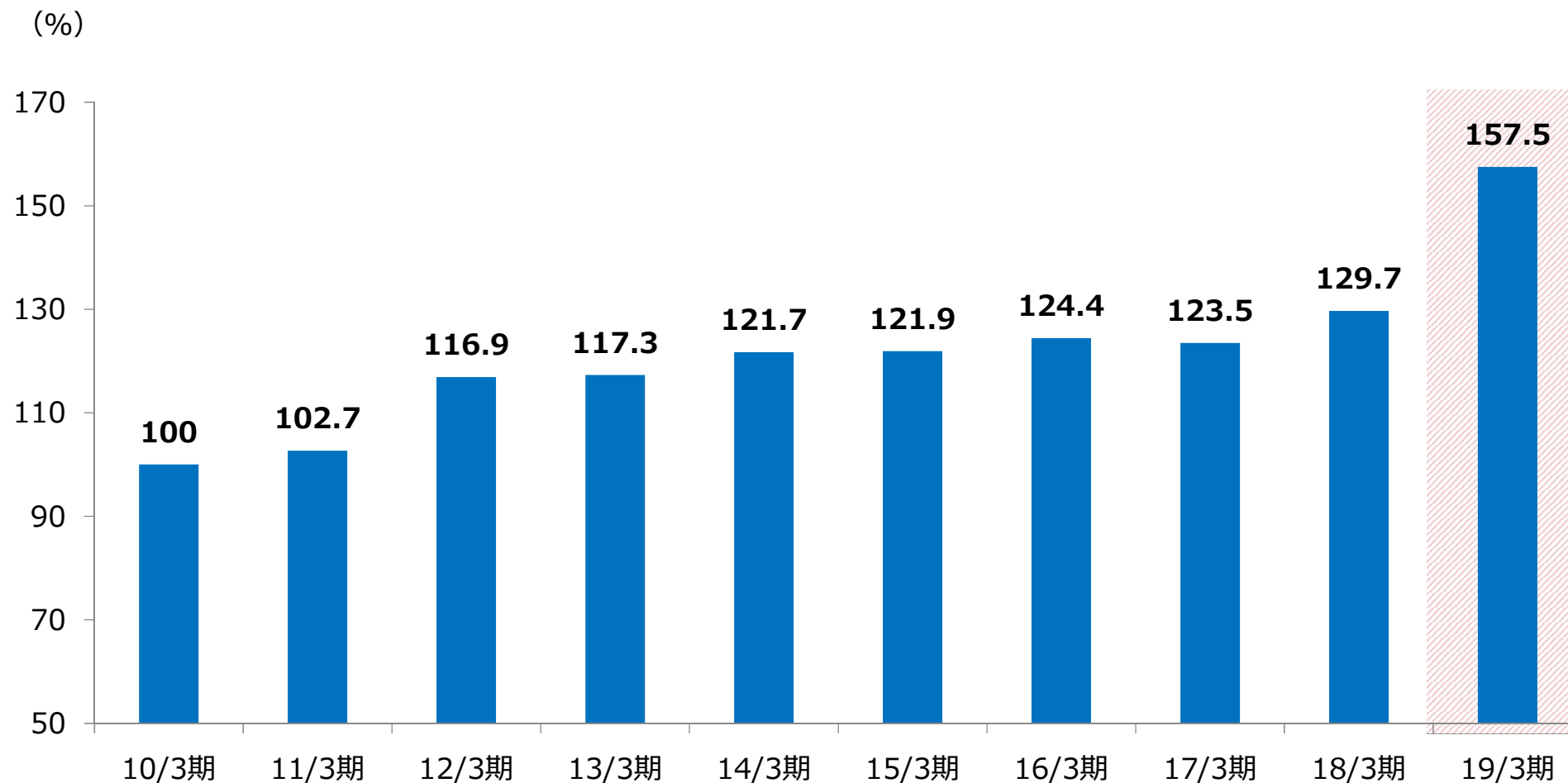


● 期末受注残高は過去最高水準で推移



※受注実績・受注残高は、工事進行基準適用後の金額

- 防火設備の定期検査報告制度に加え、台風の影響による復旧需要もあり、増加



\* 10/3期を100とした場合の売上高の推移。

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動 C F : 仕入債務の増加によるもの
- 投資活動 C F : 固定資産の取得によるもの
- 財務活動 C F : 長期借入金の返済によるもの

(百万円)	18/3期	19/3期
期首現金・現金同等物残高	1,079	1,671
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,058	1,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39	△70
フリーキャッシュ・フロー	1,019	1,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	△427	△690
期末現金・現金同等物残高	1,671	2,426



# 中期経営計画「BRUSH UP 3」について

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

**非住宅着工床面積は3年ぶりの減少と力強さに欠ける**

**都心部の再開発・大型物流施設等により関東圏は引き続き堅調**

**当社主要基盤である関西圏は大阪万博決定やIR誘致など明るい兆しも**



### **事業基盤の確立**

**営業活動による受注確保・販売拡大を展開  
受注案件の一層の採算管理強化を行う  
段階的投資による業務全般の効率化の推進を図る**

中期経営計画期間 連結業績予想

- 事業基盤を確立し、堅実な発展を目指す

(百万円)	19/3期	構成比	20/3期	構成比	21/3期	構成比
売上高	21,251 (19,000)	—	19,500	—	20,000	—
営業利益	1,417 (600)	6.7% 3.2%	700	3.6%	800	4.0%
経常利益	1,382 (500)	6.5% 2.6%	600	3.1%	700	3.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	69 (300)	0.3% 1.6%	400	2.1%	450	2.3%

\* 19/3期()内は当初計画

中期経営計画



**BRUSH UP 3**  
—磨き上げよう企業品質—

**行動力・スピード・稼ぐ力**

▶ 経営理念 ◀  
私たちは企業品質の向上を目指し、安全・安心・快適・感動を提供するとともに  
社会の進歩発展に貢献します。

▶ 経営ビジョン ◀  
【方 向 性】環境に応じたスタイルを追求し、行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨きます。  
【主 力 事 業】商品開発・ものづくり改革に挑み、主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深めます。  
【新分野へ挑戦】新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、次世代に繋がる収益基盤を構築します。  
【個々の責任】社員や共に働く人々は日々成長を志し、新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励みます。

▶ キーワード ◀  
強い会社、強い組織、強い社員

TOYO Shutter

企業品質の向上を目指し、  
安全・安心・快適・感動を  
提供し続けると共に、

社会の進歩発展に  
貢献することを目標とし、

全社一丸となって  
新しい中期経営計画を推進。

1

環境に応じたスタイルを追求し、  
行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨く。

2

商品開発・ものづくり改革に挑み、  
主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深める。

3

新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、  
次世代に繋がる収益基盤を構築する。

4

社員や共に働く人々は日々成長を志し、  
新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励む。





**経営**

コーポレートガバナンスを一層強化し、更なる内部統制の充実と意思伝達の迅速化を図る。

**売上  
増強**

主力事業での売上増強策として、ラインナップの充実、既存販売網で拡販出来る商品開拓を行う。

**収益力  
強化**

受注案件の採算管理を一層推し進め、稼ぐ力を磨くとともに、  
全社コストと時間管理の見直しにより収益力強化を図る。

**ストック  
対策**

メンテナンス事業は構築してきた基盤での保守点検契約の獲得に向けた動きを行う。



### 投資

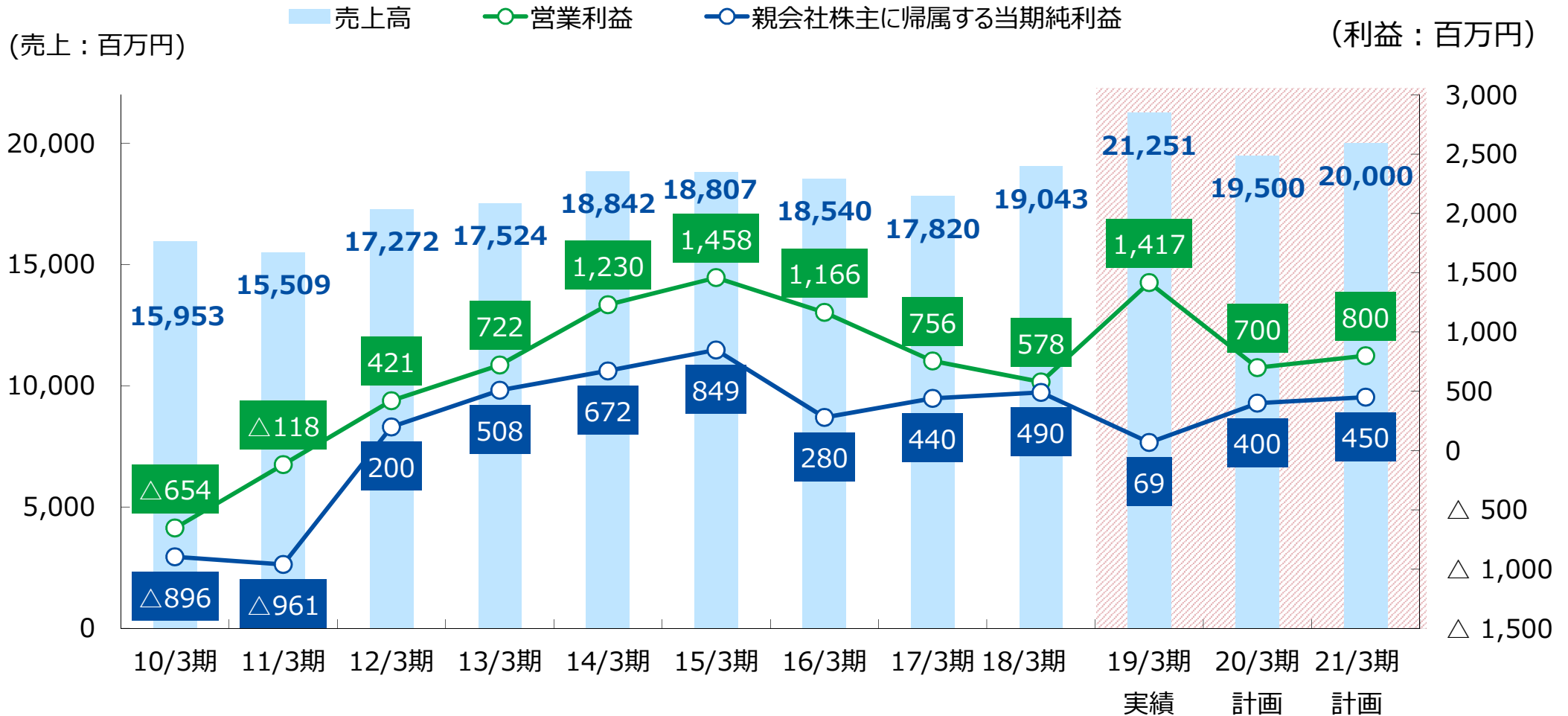
自動化、省力化、効率化、多能化を実現するため、段階的投資を行い、生産体制と設計施工体制の強化に努める

### 人材育成

人員の、適材適所の配置と最大パフォーマンスの発揮が出来る、個別の職務開発の実施、社員一人ひとりの成長に向けた自己研鑽に励む風土を醸成する

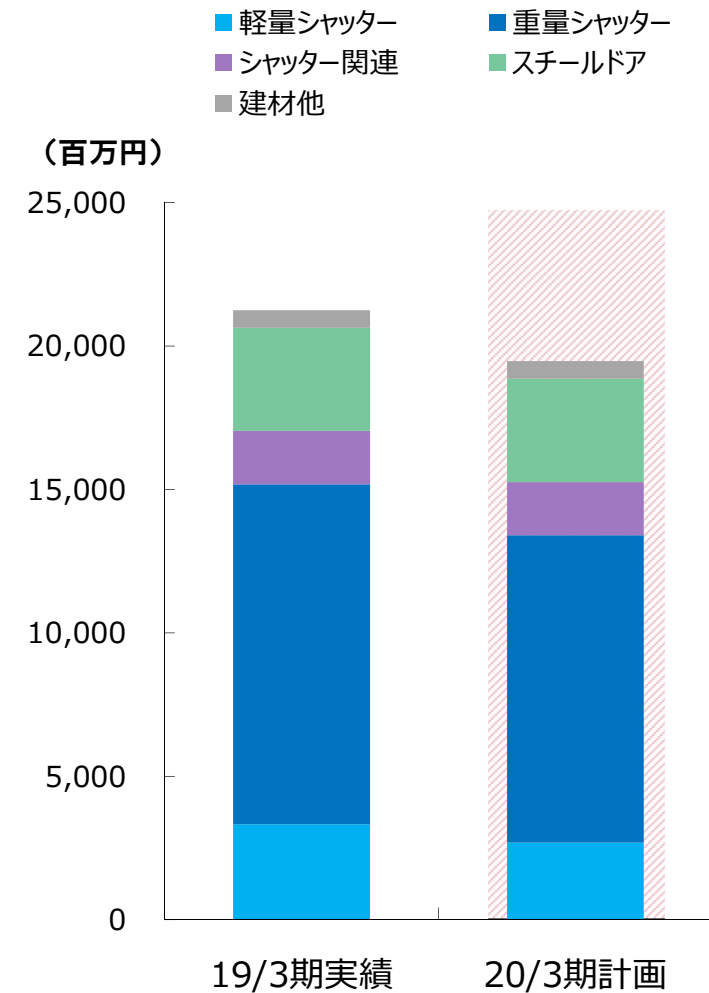
### 配当方針

効率化改革に資する設備投資や研究開発費に必要な内部留保の確保、財務状況や業績等を勘案しながら、株主の皆様に安定的な配当を目指す。

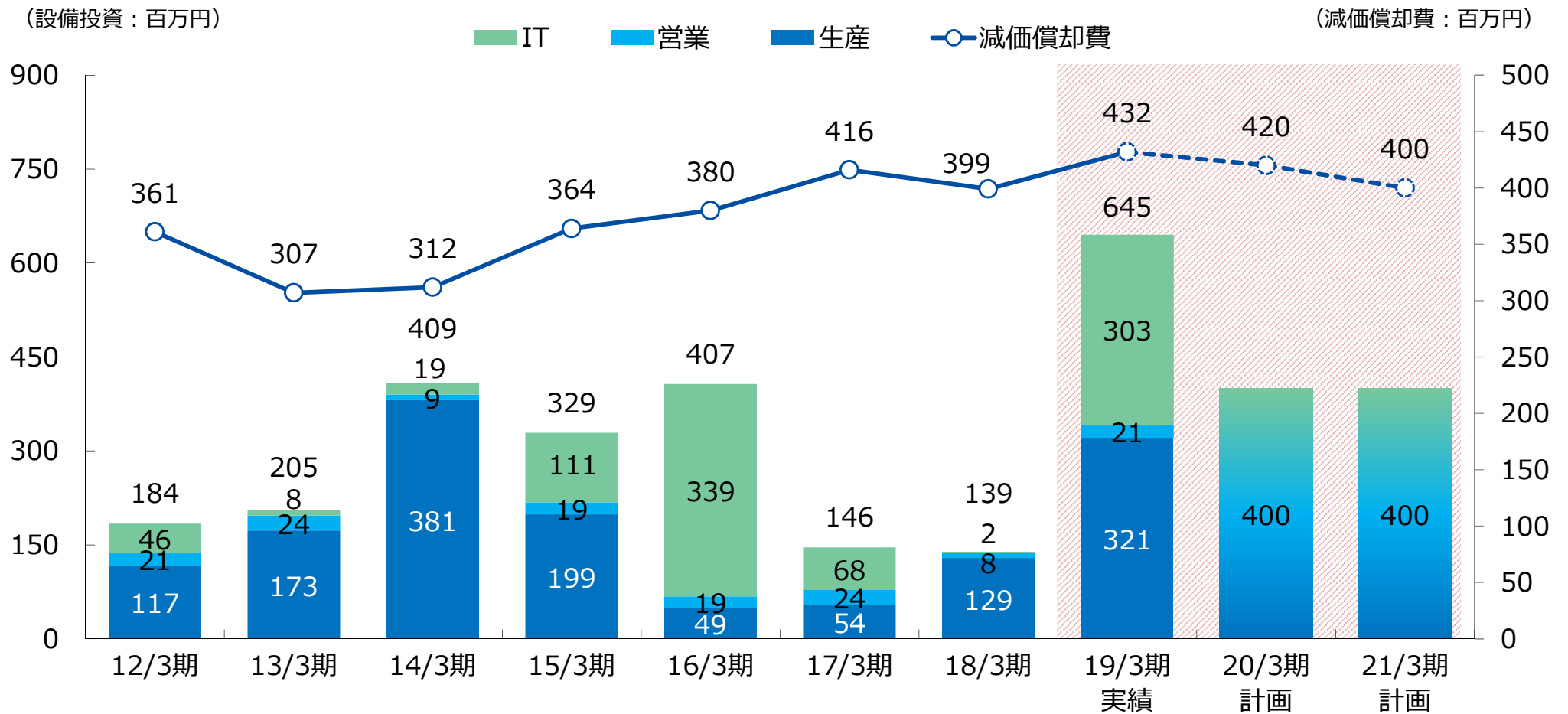


● 営業活動・採算管理を強化し増益を図る

百万円	19/3期 実績	20/3期 計画	前期比 増減率
売上高	21,251	19,500	△8.2%
軽量シャッター	3,329	2,700	△18.9%
重量シャッター	11,848	10,700	△9.7%
シャッター関連	1,863	1,860	△0.2%
スチールドア	3,597	3,640	1.2%
建材他	612	600	△2.0%
営業利益	1,417	700	△50.6%
営業利益率	6.7%	3.6%	—
経常利益	1,382	600	△56.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	69	400	476.0%

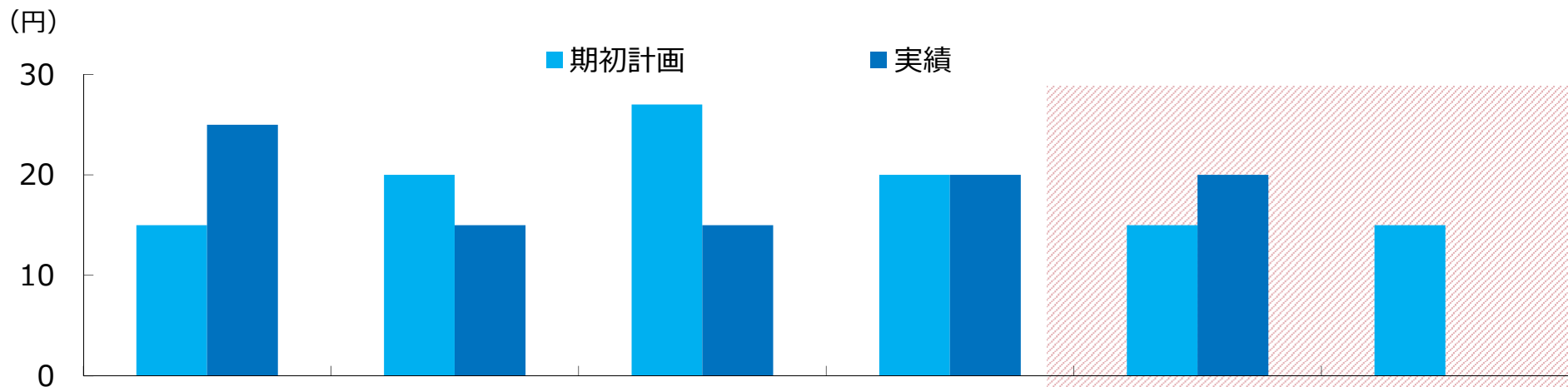


● 生産設備を中心に継続的な4億円程度の投資を計画



※投資にはリースの実行額を含んでおります。

● 財務状況や業績等を勘案し、安定的な配当を目指す

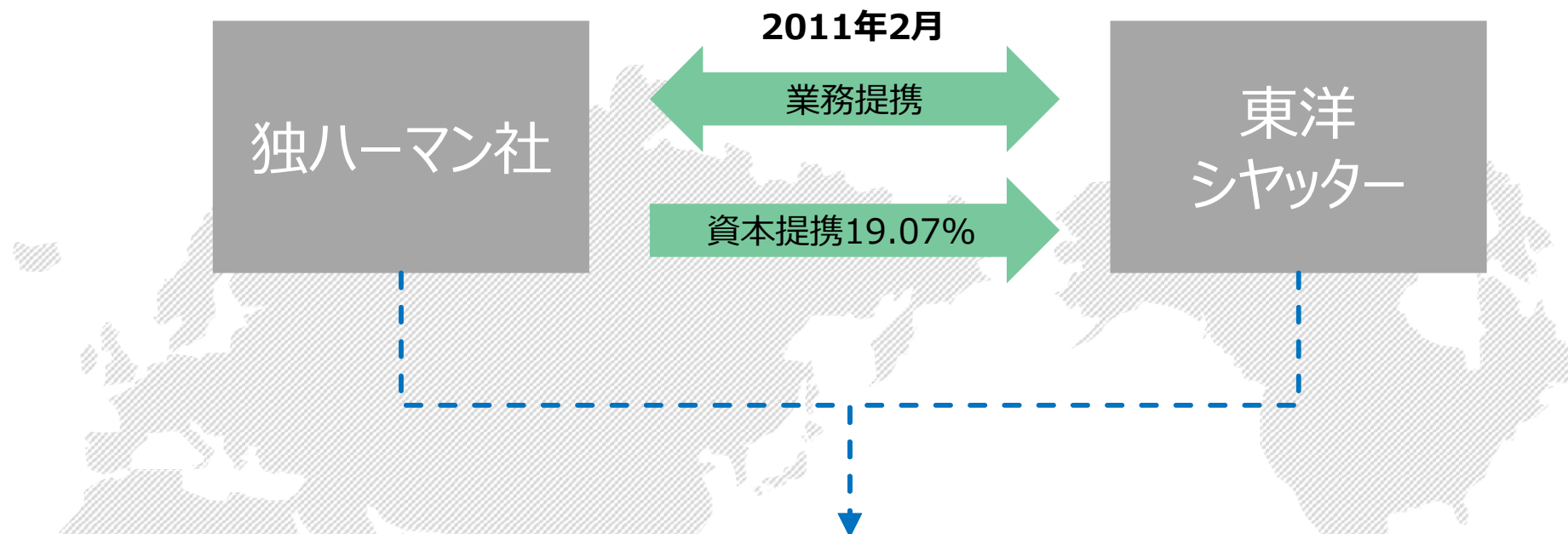


	15/3期		16/3期		17/3期		18/3期		19/3期		20/3期
	期初計画	実績	期初計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画
通期配当金	20円	25円	27円	15円	20円	15円	15円	20円	<b>15円</b>	<b>20円</b>	<b>15円</b>
配当性向	19.3%	19.9%	20.3%	33.9%	20.5%	21.6%	19.4%	25.9%	<b>31.7%</b>	<b>182.5%</b>	<b>23.8%</b>

# その他トピックス

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社



### 継続的拡大を目指して長期的な取り組みを推進

- ◆ 2011年8月より高速シートシャッター販売開始
- ◆ 2014年9月よりハイスピードシャッター販売開始
- ◆ 2018年4月より高速シートシャッターコンパクトタイプ国内生産開始
- ◆ 2018年11月より住宅用ガレージドア販売開始



## 住宅用ガレージドア<シュネルスピッツ>



## 製品概要

### 【特長】

- ウレタン充填パネルによる優れた断熱性、耐風圧性、静音性
  - パネルは内部に発泡ウレタンを充填した2層スチールパネル構造。断熱性、耐風圧性能に優れるほか、開閉時の静音性にも効果
- ヨーロッパのスタイリッシュなパネルデザイン
  - パネルのデザインは3種類あり、それぞれに適用されるパネル形状とカラー
- ガレージでの使用を考慮した高い安全性能
  - スプリング安全装置を内蔵したスプリング技術
  - ドアトラックローラー
  - パネルの指詰め防止
  - 自動ロックシステム

## 高速シートシャッター

工場や倉庫の頻繁な搬入出作業に高速スピード開閉で対応。



高速シートシャッター  
シュネル  マイスター

## ハイスピードシャッター

高速開閉と断熱パネルにより、省エネ効果を高めると共に安全性へも十分に配慮。



ハイスピードシャッター  
シュネル  カイザー

## 防音ドア (TSレバータイト)



## 製品概要

- 高い遮音性能と、開閉操作の向上
  - 従来、高い遮音性能を必要とする所には、グレモン装置を用いたPATドアを用いてきたが、オリジナルのマグネット入りのゴムを用いることで、レバーハンドルでもPATドアと同等、またはそれ以上の遮音性能を確保しながら、操作性を向上
- 豊富なバリエーションとオプション
  - すべての遮音グレードに窓付仕様をシリーズ化
  - バリアフリー対応として、床の段差を極力小さくしたフラットタイプが選択可能
  - 防音FIX窓  
TSレバータイトと組み合わせて設置することで遮音性能を保ちつつ、内部の可視化が可能に



# 参考資料 (東洋シャッターの概要)

**TOYO**Shutter

東洋シャッター株式会社

商 号	東洋シャッター株式会社
設 立	1955年9月10日
資 本 金	20億2,421万円
株 式 上 場	市場第1部（東京証券取引所）（No.5936）
本 店 所 在 地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代 表 者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従 業 員 数	531名（2019年3月末連結）
事 業 所	2本社、9支店、1営業部、50営業所・メンテナンスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製 造 施 設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子 会 社	南東洋シャッター株式会社

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪市中心部南船場に本社移転
2009年 2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2011年 2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年 5月	中期3ヵ年計画「JUMP UP 3」を策定
2015年 5月	中期3ヵ年計画「POWER UP 3」を策定
2018年 5月	中期3ヵ年計画「BRUSH UP 3」を策定



この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2019年6月